

クラス	TU310	担当教員	鈴木庸裕 (のぶひろ)
テーマ	家庭—学校園—地域をつなぐソーシャルワークの創造		
著書・論文 研究課題等	『学校福祉のデザイン』(単著) かもがわ出版, 2017年. 『学校福祉とは何か』(編著) ミネルヴァ書房, 2018年. 『多文化社会を生きる子どもとスクールソーシャルワーク』(編著) かもがわ出版, 2018年. 『子どもの貧困に向きあえる学校づくり』(編著) かもがわ出版, 2018年. 研究課題: 学校福祉をとりまく多職種協働, 学校ソーシャルワークの実践と理論.		
ゼミナール概要			
キーワード: 学校福祉, 学校におけるソーシャルワーク, 多職種協働, チームアプローチ, 地域生活指導.			
<p><目的・内容></p> <p>現場に足を運び, いま, 何が起きているのかを確かめようとする. その際, 目に見えるものが真実とは限りません. さらに, つねに私たちに真実を見抜く力があるとは限りません. そんなときに, まず, 物事の背景には何があるのか, どうしてそうなるのかをみずからの手で確かめてみる. 何が本当なのか. 自分の思い込みや経験で決めつけず, わからなかったら徹底的に文献や資料を読んだり, その道のさまざまなオーソリティを尋ね(訪ね)てみる. ゼミの目的はその入り口に立つことだと思います.</p> <p>このゼミは, いじめや不登校, 子どもの貧困, 発達特性への対応, 非行, 暴力などの子どもたちをめぐる問題に対し, 1つの専門性や専門職では解決できないのではないだろうかという問いをもとに, 教育, 福祉, 心理, その他医療, 看護, 保健, 司法などのつながり(橋渡し・ソーシャルワーク・人材育成)を扱っていきます. 学校園と地域の関係機関との連携など1つを見ても, 数多くの研究対象や課題が見えてきます.</p> <p>今年度のゼミでは1つの例として, スクールソーシャルワークという新しい視点から問題の解決や軽減をはかる教育実践について考えて行きます. 専門職をめざす上で, 相談援助の技術やチーム会議の進め方, 子ども理解の方法, 地域の関係機関の連携, アセスメントのあり方などを持ち合わせるためのいわば「素地づくり」を深めたいと思います. これからの専門職の育成という点で, 教育職や保育・福祉職, 心理職などの分野の人々とともに学ぶ多職種協働学習の機会(学習会や学会への参加)や他学部の学生(社会福祉, 看護, 健康・保健)との共同学習などもできればと考えています.</p> <p>また, 今年度は, 東日本大震災にもふれながら, 日常の喪失のなかでの子どものいのちと暮らし, 支援とは何かについて取り上げたいと思います.</p> <p><ゼミ運営></p> <p>3年生では, 全体での統一テーマとともに, 各自のテーマの発見やそのテーマの歴史, 国内外の動向, 課題をめぐる先行研究, 実践の実際やその課題などを深めていきます.</p> <p>4年生では, 卒業研究として各自の論文執筆などが始まります. 2019年から開講ゼミなので4年生はまだいません. ゼミ生と一緒につくっていきます.</p> <p><年間計画></p> <p>ゼミ室での学習や検討の討議, そして実践の現場や実践家からの聞き取り, フィールドワーク, 学習会への参加, 学習合宿など外に出向くことも多くあります.</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>◎登録前の事前面談: ゼミ希望者は, 事前面談が必須です(オフィス・アワーは水曜昼休みと15:20~17:30. 事前にメールでアポを).</p> <p>◎希望者への期待: ゼミは, 学部学生を対象としています. しかし, 内容は, 専門職の育成や養成であっても同じくみなさんに求めているものです. 教育や福祉, 心理など, それぞれの理論や専門を学ぶこととともに, その両者を「つなぐ専門性」について考えてみる. これはたくさんのチャレンジを含んでいます.</p> <p>◎ダブル・ライセンスへの志向: 教員免許と社会福祉士の同時取得は在学中には難しいですが, 学校福祉の専門職について考えてみたい. 子ども福祉に強い教師, 学校教育に根ざした福祉職とのクロスオーバー.</p> <p>本をよく読む人: 学生時代に理論や援助・支援の技術に目が行きすぎると頭でっかちになります. でも, 価値を深め, それをわがものとするのは大切です.</p> <p>◎学生生活の経験を生かす: 子どもや人に関わる支援など, 様々なボランティアや学生サークルの経験を研究に活かすのもよいと思います.</p>			